

COVID-19 感染拡大前後における国営公園の広域的レクリエーション利用の変容

国立研究開発法人土木研究所 正会員 ○太田 広
 国土交通省 大工 秀樹
 国土交通省 岩渕 仁志
 株式会社建設環境研究所 長本 大介

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の陽性者が初めて報告された2020年1月以降、感染拡大は国民生活に大きな影響を及ぼしている。不要不急の外出自粛が求められる中、都市公園の利用への影響も例外ではないが、一方で、国土交通省は国民の健康の維持増進に欠かせない緑のオープンスペースである都市公園の利用を促す取り組みを行っている¹⁾。

感染拡大による公園利用の変化に関しては、東京都や兵庫県など大都市圏の都市公園を対象に利用実態の変化を報告したもの^{2,3)}や利用者数の変化を携帯電話の位置情報から把握したもの^{4,5)}などがあるが、感染拡大が国営公園（国が設置する都市公園）の利用に及ぼす影響や大都市圏以外での都市公園に関する知見の蓄積は十分ではない。

本報告では、国営滝野すずらん丘陵公園を対象に、COVID-19の感染が拡大する前後のR1年度からR3年度の公園利用を比較し、同公園において生じた公園利用の変化を利用者数の推移やアンケート調査の結果等から整理し、広域的レクリエーションを担う国営公園の利用促進について議論する。

2. 国営滝野すずらん丘陵公園の概要

国営滝野すずらん丘陵公園は、北海道札幌市を中心とする広域的なレクリエーション需要に対応するために設置された、北海道で唯一の国営公園である。面積は395.7haで、札幌市郊外の丘陵地に位置している。

北海道では2020年1月28日COVID-19陽性1例目が発表され、同公園では2月28日に発令された緊急事態宣言に伴い、3月3日から3月31日まで29日間臨時休園した。R2年度は、4月1日からの定期休園に引き続き、4月16日に発令された緊急事態宣言に伴い、4月19日から5月27日まで39日間臨時休園した。R3年度は、5月16日に発令された緊急事態宣言に伴い、5月17日から7月11日まで56日間臨時休園し、さらに8月27日に発令された緊急事態宣言に伴い、8月28日から9月30日まで34日間臨時休園した。

キーワード COVID-19, 都市公園, 国営公園, 公園利用, 管理運営

連絡先 〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号 寒地土木研究所 TEL011-841-1152

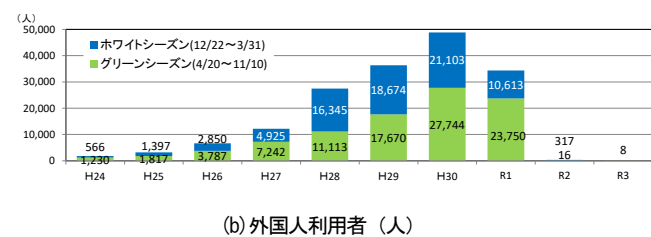
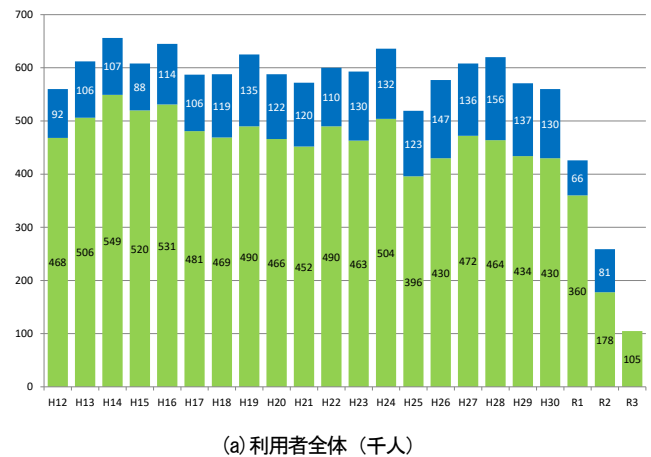


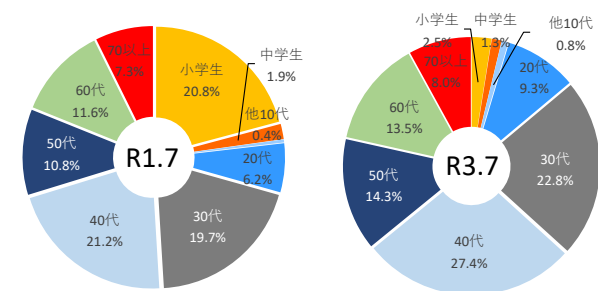
図-1 利用者数の推移

3. 公園利用の変容

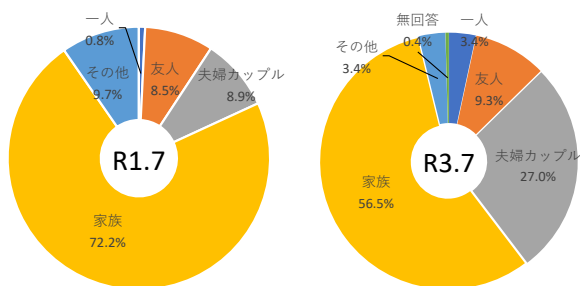
図-1にH12年度からの利用者数の推移を示す。利用者数は毎日実測しているデータに基づく。なお、R3年度は8月までのデータである。感染拡大により週末の外出自粛が求められたR1年度ホワイトシーズン（12月から3月）から顕著に減少した。同公園は「インバウンドへの貢献」を基本方針としており⁶⁾、近年増加傾向だった外国人の利用者は訪日外国人観光客の入国制限によりほぼなくなった。なお、R1年度はヒグマ出没による臨時休園（計39日間）、R2年度もヒグマ出没による臨時休園（計58日間）があったことに留意が必要である。

次に利用者へのアンケート調査で把握した公園利用の実態や利用者の満足度を図-2に示す。アンケート調査は2019年と2021年の夏季（原則として7月）の休日及び平日各1日、園内2カ所の定位置での書き込み方式で行い、各年約200人から回答を得た。利用者の年代別では「小学生」が顕著に減少し、「40代」「50代」が増加し

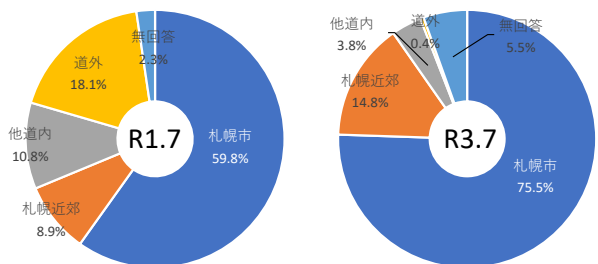
た(図-2(a)).「小学生」の減少は、遊具の利用制限が影響したものと考えられる. 利用者のグループ属性では、「家族」の割合は減少し、「夫婦カップル」の割合が増加した.「一人」での来園も約3%みられた(図-2(b)). 利用者の居住地は、「道外」からの来園がほぼ無くなり、「札幌市」及び「札幌近郊」からの来園が増加した(図-2(c)). 一方、満足度は「非常に満足」が顕著に減少し、「まあまあ満足」との合計も減少した.「やや不満」は約8%となった(図-2(d)). 公園利用は、比較的近郊から少人数での来園に変容した実態が明らかになった.



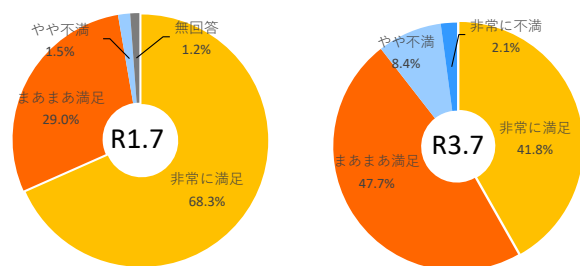
(a) 利用者の年代別割合



(b) 利用者のグループ属性別割合



(c) 利用者の居住地別割合



(d) 利用者の満足度別割合

図-2 利用者の変化

4. まとめ

北海道では、特措法に基づく緊急事態措置に「公園等における感染拡大防止の要請」として、少人数で混雑時を避けることや人と人との距離を適切に取ることが要請された. この要請に対応するように、同公園でも、COVID-19 感染拡大により、札幌市近郊から少人数での来園の割合が増加した一方、利用者の満足度は低下する実態を把握した. 先行調査では、樹林地を散策できる丘陵地の公園での利用者の増加が報告されている²⁾. また、都心部よりも郊外で利用者が増加する傾向が指摘されている⁴⁾. 公園の管理運営においては、密集場所を作らない工夫や混雑情報の発信とともに、自然観察など少人数での利用に適したレクリエーション、広大な屋外空間を活用した散策、サイクリング等の提供など満足度を維持する工夫が求められる.

一方、同公園は、北海道における先導的な役割を担う国営公園として、「安全・安心な公園の創出」を前提に、「多様な利用機会の提供と積極的な情報の受発信」「インバウンドへの貢献」等積極的な利用促進を基本方針としている⁶⁾. 同公園では、広域からの来園増加に向けて、マイカーを利用したドライブイン花火やマラソン大会などでスタート時間をずらすなど、密接場面を作らないイベントの工夫に取り組んでいる. 感染対策と公園の利用促進の両立による満足度の向上と広域的利用の促進が課題である.

参考文献

- 1) 国土交通省:「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう! 4つのポイント: 報道発表資料, 2020.
- 2) 尾谷悠介, 嶽山洋志, 山本聡, 薬師寺恒治, 中瀬勲: 都市竹内智子, 久間亜紀: COVID-19 対策下の東京における大規模公園の利用制限の実態と利用者数の変化: ランドスケープ研究, Vol.84(5), pp479-484, 2021.
- 3) 公園における新型コロナウイルス感染症の流行が公園利用に及ぼす影響: 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集 Vol.18, pp.1-4, 2020.
- 4) 五十嵐紅梨歌, 上町あずさ, 杉浦徳利: 新型コロナウイルス感染症流行による都市公園の利用者数変化と公園特性の関係—大阪市・堺市・名古屋市の都市公園に着目して—: 日本緑化工学会誌 Vol.47(1), pp. 39-44, 2021.
- 5) 嶽山洋志, 若井幸夫, 山本聡, 薬師寺恒治, 中瀬勲: 位置情報ビッグデータからみたコロナ禍における都市公園の利用実態: ランドスケープ研究, Vol.84(5), pp475-478, 2021.
- 6) 国土交通省北海道開発局: 国営滝野すずらん丘陵公園管理運営プログラム: 2021.